

Weaverシリーズ：導入・セットアップガイド

～ 各ツールの個別インストールと環境設定 ～

最終更新：2026/06/30

Weaverシリーズ（MotionWeaver / LayerWeaver / RigWeaver / BatchWeaver）は、それぞれ単体でインストールして使用することが可能です。本ガイドでは、各ツールをあなたのPCで即座に使えるようにするためのセットアップ手順を解説します。

1. MotionWeaver（3Dモーション翻訳機）の導入

MotionWeaverは、コマンドラインや外部ツール（BatchWeaver）から「どこからでも呼び出せる」状態にすることが、最も効率的な使いかたです。そのためには、Windowsの**「環境変数（PATH）」**の設定が推奨されます。（※Windows向け配布パッケージでは `.exe` 形式で提供されるため、Python環境の別途インストールは不要です）

1.1 フォルダの配置

- ダウンロードしたフォルダ（`MotionWeaver.exe` や `templates` フォルダ等が入っているフォルダ）を、管理しやすい場所（例：`C:\Tools\MotionWeaver` など）に配置します。
 - 補足（最新のファイル構成）**：以前のバージョンで解説されていた `synonyms.json` は現在デフォルトでは使用されておらず、またマスター・スキーマは `templates/` フォルダ内に `templates_layerbind.json` や `templates_rubberhose.json` として細分化・整理されています。
 - 注意**：フォルダの場所を後で変えると、環境変数の設定をやり直す必要があるため、最初に場所を確定させてください。

1.2 【重要】環境変数（PATH）の設定手順

「どのフォルダにいても、コマンド一つでMotionWeaverを呼び出せる」ように設定します。

- システムプロパティを開く**：Windowsキーを押して「環境変数」と入力し、**「システム環境変数の編集」**を選択します。
- 環境変数ボタン**：右下の「環境変数」ボタンをクリックします。
- Pathの編集**：下段の「システム環境変数」または上段の「ユーザー環境変数」の中にある `Path` という項目を探して選択し、「編集」をクリックします。
- 新規追加**：「新規」をクリックし、先ほど `MotionWeaver.exe` を配置したフォルダのフルパス（例：`C:\Tools\MotionWeaver`）を貼り付けます。
- 完了**：すべてのウィンドウを「OK」で閉じます。

1.3 動作確認

- キーボードの `Win + R` を押し、`cmd` と入力してEnter（コマンドプロンプトを起動）。
- `MotionWeaver --help` と入力してEnterを押します。
- ヘルプメッセージが表示されれば、設定成功です。これで、どのプロジェクトフォルダからでもコマンドやツール経由でMotionWeaverを呼び出せるようになりました。

2. LayerWeaver（Krita用解析プラグイン）の導入

Kritaでお絵描きをしながら、レイヤー構造を自動解析するためのプラグインです。

2.1 配置場所へ移動

ファイルエクスプローラーのアドレスバーに以下をコピー＆ペーストしてEnterを押します。

`%APPDATA%\krita\pykrita`

2.2 ファイルを置く

ダウンロードした **LayerWeaver.desktop** と **Layerweaver** フォルダの両方を、この場所にコピーします。
（※ **LayerWeaver.zip** がある場合は、それを解凍して配置してください）

2.3 Kritaでの有効化

1. Kritaを起動し、**設定** → **Krita** を**設定...** → **Python プラグインマネージャー** を開きます。
2. **LayerWeaver** にチェックを入れます。
3. 【必須】 **Kritaを一度完全に終了し、再起動してください。**

ツールメニュー内の「スクリプト」に LayerWeaver が登録されていれば正常にロードされています。

3. RigWeaver（Moho用リギングスクリプト）の導入

Kritaで作ったパーツを、Moho上で一瞬で組み立てるためのスクリプトです。

3.1 配置場所

Mohoのカスタムコンテンツフォルダ内の以下の場所に配置します。 `scripts/tool/we_rigweaver.lua`
（※ファイル名が `we_rigweaver.lua` のようにプレフィックスが付いている場合も、そのまま **tool** フォルダ内に置いてください）

3.2 動作確認

Mohoを起動し、ツールパレット（または「その他」メニュー）に **RigWeaver** が表示されていれば完了です。Krita（LayerWeaver）から書き出したPSDを読み込み、このスクリプトを実行するだけでリギングが完了します。

4. BatchWeaver（一括出力ツール）の導入

BatchWeaverは、MotionWeaverの変換プロセスを複数アングル・特定フレーム単位で連続実行するための自動化ツール（GUIアプリケーション）です。

4.1 配置場所

ダウンロードしたパッケージ内に含まれる **BatchWeaver.exe** を使用します。MotionWeaverと同じディレクトリ（例：`C:\Tools\MotionWeaver`）に配置したままにしておいてください。

4.2 動作確認

1. Windows上で **BatchWeaver.exe** をダブルクリックして実行します（Python環境は不要です）。

2. BatchWeaverのUI（操作画面）が立ち上がれば成功です。

（※具体的なCSV指示書の書き方や一括出力の実行手順については、「BatchWeaver：まとめて書き出しガイド」を参照してください）

5. トラブルが起きたら

セットアップで一番つまづきやすいのは「MotionWeaverのパス設定」です。

- **コマンドが認識されない:** フォルダのパスが間違っていないか、再確認してください。
- **Kritaにプラグインが出ない:** 再起動を忘れていませんか？ Kritaは設定変更後の「完全な再起動」が必要です。

もし解決しない場合は、一人で悩まずに作者へ相談してください。設定さえ終われば、あとはクリエイティブな制作に集中するだけです。